

植物多様性センターの「イシミカワの花」

イシミカワは、タデ科のつる性の1年草です。茎や葉柄、葉裏にまで鋭い下向きのトゲをつけて、自分より大きい樹木や草をよじ登り、日の当たるところで花や実をつけます。鮮やかな青い実はよく目につくため、ご存じの方も多いのですが、花は小さく地味なため、いつ咲いたのか、どんな花だったかさえ印象に残りにくい植物です。今、奥多摩ゾーンの流れのそばでひっそりと咲いています。



8月下旬:枝先や腋芽から伸びた丸い苞の上に花序をつける



9月上旬:緑白色の花被の先が小さくほころび、開花する



開花直後:咲き終わった後、花被は散らずに丸く肥厚する



秋:肉厚となった花被は青く色づき、中には黒いそう果を宿す